

村上三島先生 懷想



昨年十一月二〇日、日本芸術院会員 村上三島先生がご逝去なされました。謹んで哀悼の意を捧げます。

我が国書道界の第一人者として、芸術文化の進展に尽くしてこられた功績についてはここで特筆するまでもありません。文化功労者選ばれ、文化勲章を受章されたお方を本誌がどうして特集するかについては、ご寄稿くださった三人の方々のお話をお読みいただき、千里山との深い関係を知っていただくことでご理解いただけることと存じます。本名は正一、三島(さんとう)は号ですが、先生のご出身が愛媛県の大三島であり、世に出られるまでの研鑽の場が三島郡千里山であったこともご縁の始まりと申せましょう。

戦前、噴水から二軒下の仲辻牛乳店二階の私塾時代、終戦後吹田一中の書道教師時代、先生の芸道と人格に接し感銘を受けた多くの会員とともに、ご功績を讃え心からご冥福をお祈り申し上げます。

大正元年 愛媛県越智郡上浦町に生まれる。

十五年 大阪市立泉尾工業学校一年生の時、体操

の怪我で入院、書道に進む決心をする。

昭和二年 片山萬年に師事し書を学ぶ。

辻本史邑に師事する。

二〇年 日展初入選。

二三年 第五回日展「杜甫寄弟詩」特選。

二四年 第八回日展「陸放翁曉嘆詩」特選。

二七年 柴静儀詩「秋分思子」で文部大臣賞。

四三年 「杜甫贈高式顔詩」で日本芸術院賞。

五四年 愛媛県教育文化賞。

五七年 上浦町に村上三島記念館開館

五九年 中国河南省博物館で「王鐸に学ぶ村上三島書法展」を開催

六〇年 日本芸術院会員。

六三年 勲三等旭日中綬章を受ける。

平成五年 日展顧問。

〃 文化功労者に選ばれる。

六年 上海市より白玉蘭奨を受ける。

十年 文化勲章受賞。

十七年 十一月二〇日卒 行年九三歳。